



令和4年度運営事業費研究事業（インハウス研究） 研究報告書

概要版

認知症ケアスーパーバイザーのコンピテンシーリストの 開発に関する研究

1. 背景と目的

認知症ケア実践現場において、認知症の人が大切にされていると感じながら生活を送ることができるよう、質の高い認知症ケアを実践していくことが専門職には求められている。そのためにも、認知症ケアに関する専門的知識を習得することができる機会が必要であり、その一つとしてスーパービジョン（以下、SVという）を展開していくことが挙げられる。SV実践では、SVに関する価値観や知識、技術に基づいたSV実践を展開していくことがスーパーバイザーには求められており、認知症ケアSV実践においても同様であるといえる。このことから、認知症ケアSVを実践するためには、認知症ケアスーパーバイザーとしての必要となる価値観や知識、技術を明確にすることが重要である。本研究では、認知症ケア実践現場においてスーパーバイザーとして活躍している専門職を対象とした調査をもとに、認知症ケアスーパーバイザーとして必要となる価値観や知識、技術について明らかにし、コンピテンシーリストの開発を行うことを目的とする。

2. 研究方法

認知症ケア実践現場においてSVを実践している専門職2名を対象に個別インタビューを実施し、認知症ケアスーパーバイザーとして必要となる価値観や知識、技術について質問した。その後、先行文献検討の結果を踏まえ、認知症ケアスーパーバイザーのコンピテンシーリストを作成し、スーパーバイザー経験のある専門職を対象にアンケート調査を行い、内容についての妥当性を検証した。本調査は社会福祉法人仁至会倫理・利益相反委員会の承認を経て実施している。

3. 調査結果

調査結果を踏まえ、7カテゴリー68項目からなる認知症ケアスーパーバイザーのコンピテンシーリストを作成した。

カテゴリー	主な内容
スーパーバイザーに求められる姿勢（23）	スーパーバイザーとともに考えることに喜びややりがいを持つことができる スーパーバイザーとしての自覚を持つことができる
スーパーバイザーに求められる知識・技術（13）	スーパーバイザーに普段のケアの進め方について把握する質問ができる スーパーバイザーの専門職としての知識・スキルを確認するための質問ができる
受容の姿勢（3）	スーパーバイザーから意図としない答えが出た場合、それを受け止めることができる スーパーバイザーからの批判を受け入れることができる
スーパーバイザーへの関わり（5）	アドバイスにならないようにするために、スーパーバイザーが語りだすのを待つことができる スーパーバイザーの思い込みや経験談をスーパービジョンに持ち込まない
SVの計画性（6）	スーパービジョン実践計画を前もって立てることができる スーパービジョンの目的や方法、回数、時間などについて計画を立てることができる
SVへの評価（3）	スーパーバイザーとしてスーパービジョンに及ぼす影響に気づき、その評価ができる スーパービジョン終了時点で何が達成できたのか、できなかったのかを振り返ることができる
認知症ケアSVに求められるスーパーバイザーの役割（15）	スーパーバイザー自身の認知症ケアに対する価値や意義について尋ねることができる 認知症に対するスーパーバイザー自身の考え方について尋ねることができる

4. 全体のまとめと課題

今回作成したコンピテンシーリストは、対人援助職としてSVを実践していく中で求められるスーパーバイザーとしての価値観や知識、技術に加え、認知症ケアを実践しているスーパーバイザーに対してSVを実践する中で必要となる支援や考え方について整理したものであり、認知症ケアSVを展開していく上での評価指標としてなり得るものであると考えられる。今後は、コンピテンシーリストの内容に対する信頼性と妥当性の検証、評価指標としての有効性の担保にも努めていくことが必要である。